

天理市アーティスト・イン・レジデンス モデル事業の取組状況

(仮称)奈良県国際芸術家村のオープンを見据えた取組として、天理駅周辺と芸術家村とを結ぶ芸術文化エリアにおいて、主要動線としての芸術通りの構築や作品制作や展示などにより芸術文化に触れる機会の設定など、芸術文化を巡る回遊性を高める「芸術文化エリア構想」を進めます。

● アーティスト・イン・レジデンス モデル事業 — “芸術文化に出会える街”を目指して —

○天理アーティスト・イン・レジデンス モデル事業実行委員会

作家受入業務などを担う運営主体
第1回会議を8/3に開催

【委員】天理大学副学長、市芸術協会長、商店街組合理事長、
ゲストハウスマネージャー等



委員自身が主体的に情報発信 (SNS含む)



パチンコ店を改修して完成した
モノゲストハウスがAIR滞在拠点

○招聘アーティストによる制作活動

ペ・ヨンウク氏: 長期滞在50日間 9/16(日)～11/4(日) アーティスト・イン・レジデンス(AIR)滞在拠点であるモノゲストハウスに滞在。

横山大介氏: 短期滞在(通い型) 8/18(土)～11/4(日)のうち週末をメインに大阪から天理に通う。ゲストハウスに宿泊することも。

活動状況



AIRアーティストによるグループ展「SITES」(12月1日～12月23日)



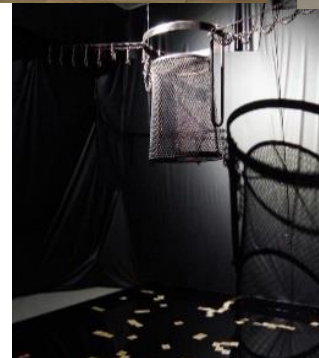
交流



姉妹都市の関連で
韓国語講座にゲスト講師としてペ氏出演



天理市展で市内芸術協会会員や来場者と交流。
その場でインタビューが始まるシーンも。

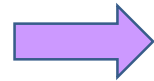


天理市アーティスト・イン・レジデンス モデル事業の取組状況

● 展示・交流のフィールド「Art-Space TARN」の開設

- 商店街空き店舗を改装。市も補助して民間アートスペースへ（約60㎡）
- ・作品制作の場 ・作品展示の場
- ・アーティストと地域や来訪者との交流の場（展示解説、ワークショップなど）

12月1日オープン



市が補助し改修
6年度間賃借



アートスペース「TARN」



オープニングセレモニー

文化系情報誌掲載、アーティストによるSNS
発信などを駆使し、オープン当日は
県外や国外からも来客



※ロゴマーク
 いろいろな角度から天理を見て、
 たくさんの事を感じてもらいたい。
 その想いを、上下左右から文字を
 読めるようにすることで表現。
 「AIR」のキーワードも内包。

アーティストによるワークショップ



ペ氏：思い出のモノに隠れたストーリー

参加者が持ち寄った思い出の品にまつわる記憶を共有し木片に記す。それを水面に浮かべ、他者の記憶と出会うことで新しい物語を構築する。



横山氏：「インスタントカメラ」でポートレート

町に出かけ、インスタントのフィルムカメラで偶然性を楽しみながらポートレート撮影。その後には現像写真を相互に講評して交流。

今後の活用・展開

1/11～1/25：彫刻家
安藤榮作・長谷川浩子
二人展

2018.1.11～25 11:00-17:00
 開催日：1月15日(土)・18日(月) 会場：Art-Space TARN 主催：天理市
 TARN
 Art-Space TARN



安藤榮作・長谷川浩子 — 二人展

- 1/29～2/10 天理市芸術協会理事 上林一 展 ～時空～
- 2/14～2/26 天理市芸術協会会長 川畑太 油絵展 ～息のする方向～
- 2/24 特別トークイベント「アーティスト・イン・レジデンスの可能性をさぐる」
- 3/1 ～3/10 てんりアートストリート2018 参加作品展



アーティストトーク&レセプション

➡ 来年度以降も継続的にアート拠点として活用